

講演・発表申請ガイド

- ・ 諸手続の宛先や各分科会の詳細は、最新のサーキュラーをご覧ください。サーキュラーは『日本の科学者』に折り込まれているほか、JSAウェブサイト<http://www.jsa.gr.jp>からダウンロードできます。いずれでも入手できない方は、ご所属の支部事務局または全国事務局03-3812-1472にご請求ください。
- ・ 分科会講演申請を行なう前に、あらかじめコーディネータにご相談ください。
- ・ この申込ファイルの送付先（ファイル添付でメール送信してください）
希望する分科会有る場合：コーディネータ（第2サーキュラーにメール記載）
希望する分科会がない場合・ポスター発表：実行委員会（同上）
- ・ 申込後1週間受領の返信がない場合、コーディネータと実行委員会にご連絡下さい。
- ・ 電子メールが使えない方のみ、申請に必要な事項を記入した用紙を、FAXか郵送で実行委員会（=全国事務局）宛に送付してください。
- ・ 分科会講演申込1次締切は7月27日（金）です。9月3日に分科会日程を発表します。
- ・ 分科会講演2次募集は9月3日（月）～9月30日（日）です。
- ・ 予稿集原稿ファイル提出締切10月14日（日・実行委員会に必着）を厳守してください。

予稿集原稿（分科会・全体会講演、ポスター発表とも）作成ガイド

- ・ 使用ソフト：Microsoft Word とします。
- ・ 用紙サイズと枚数：分科会・ポスターとも A4 判 2 ページ(図表を含む)。全体会講演の予稿は A4 判 6 ページ以内をめどとし、制限を設けません。
- ・ テキスト：は黒色のみを使用してください。指定フォントの使用ができない時は、これに近いフォントを使用して下さい。
- ・ 図版の色と解像度：図版はカラーを使用してもよいが、仕上がりは白黒印刷なので、色の違いが判別できなくなるおそれがあります。また、図版は印刷に耐える解像度のものを使用してください。図版中の文字が小さく判読不能とならないよう取込サイズにご注意下さい。
- ・ ページ設定：文字サイズ 10.5 ポイントで 1 行文字数 46 文字、行数 40 行。表題・発表者名は横書き 1 段組、本文・引用文献は横書き 2 段組。詳細な設定は次ページ図をご参照ください。すでに設定のできているテンプレート（ひな型）ファイルのご使用をお勧めします。
- ・ 上記の書式での原稿作成が困難な場合は、早めにコーディネータにご相談下さい。使用したいカラー図版が白黒化に不適で、自分で色変換などができない場合など、高度の技術支援が必要な場合は、早めに実行委員会にご相談下さい。
- ・ 必ず参考引用文献を明記ください。著作権を侵害する図版・テキストの使用はしないでください。
- ・ 原稿は、docx ファイル(Word 形式)と PDF ファイルの両方をコーディネータに送信してください。PDF は、「名前をつけて保存」で開くダイアログボックスの「フォーマット」から選べます。
- ・ PDF での提出ができない方は、Word の docx ファイルのみでも構いませんが、この場合、版下作成時に書式が崩れても担当者がチェックできない可能性があります。
- ・ 予稿ファイル送信の締切日は 10 月 14 日(日・必着) です。

上余白 3 cm

題名:MS ゴシック、(英)Arial、
サイズ 14 pt、中央揃え

副題(ある場合):MS ゴシック、(英)Arial、サイズ
12 pt、中央揃え

2nd Circular をお届けします -20 総学成功に向けて-

1行空ける

総学 太郎、Sougaku Tarou (総学大学)

1行空ける

1. はじめに

人類社会 様々な問題で大きな

見出し:MS ゴシック、(英)Arial、サイズ 10.5 pt
題で大きな 転機を
もいても科 学や技
学や技術の問題が深く関わり、科学者 の役割

氏名(日本語、英語併記)、():内
に所属:MS 明朝、(英)Times
New Roman、サイズ 12 pt、右揃え

の役割の重要性が増大しています。17 総学の基本テーマが「平和の創造と科
総学の基本テーマが 本文:2段組み、MS 明朝、(英)
Times New Roman、サイズ 10.5 pt、両
端揃え句読点:「、。」を使用。

学の役割」となった 爆が完成されそうなのを見たニール
り、科学者の果たす

左余白 2 cm

右余白 2 cm

も重要な岐路にあり、科学者の果たす べき役割が問われているからです。原
爆が完 段の文字数:22文字
ス・ポーアは、世界各国が相互信頼を

段の文字数:22文字

強め、核エネルギーを厳重に国際管理

段の幅 8.1 cm

段の間隔 0.8 cm

段の幅 8.1 cm

すべきだと考えました。またシカゴの 科学者はフランク報告を提出して、原

科学者はフランク報告を提出して、原 爆の対日使用に反対しました。ラッセ

下余白 2.5 cm